

代表取締役 **並木 将央** (なみきまさお)

東京理科大学大学院卒業後、日本テキサス・インスツルメンツにてデジタル家電に使われるメインLSI のファームウェア、システムの研究および開発。

しかし、研究したものが顧客が求めているか疑問に思うようになり、週末コンサルティングを経て中小企業診断士、MBAを取得。その後、株式会社ロードフロンティアを設立。

経営に必要な4つの分野（人財・財務・内部プロセス・マーケティング）のコンサルティングとスクールを主事業として、「成長社会」と「成熟社会」の環境変化を提唱している。

知識、技術だけではなく人の感情を考慮した独自の手法が成果を上げており、中小企業から一部上場の大手企業まで幅広く支持を集めている。



## <略歴>

1999-2001 東京理科大学大学院 工学研究科 電気工学専攻修士課程 修了

2001-2009 日本テキサス・インスツルメンツ 筑波研究開発センター

2011- 現在 株式会社ロードフロンティア 代表取締役

2014 The Japan Times「次世代のアジアの経営者100人 2014」選出

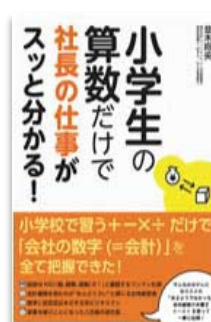
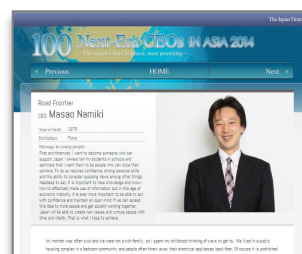
## <出版>

「成熟社会におけるビジネスシフト」(綜合法令出版社・2019年10月)

「お仕事ははやくなる おとなの算数」(笠倉出版社・2015年)

「小学生の算数だけで社長の仕事がスツとわかる！」(フォレスト出版・2012年)

「28歳の仕事術」(日経BP社・2011年)



## ■ 生い立ち ～ロードフロンティアのビジョン

東京出身、千葉育ち。

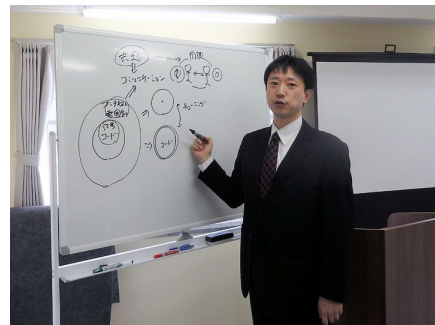
幼い頃、母が誤診の影響で総合失調症を発症、経済的にも精神的にも過酷な状況で生活する中で、自分がいる環境でどう生き抜くかを常に考える中で「知識や技術だけでは幸せに出来ない」と気づき、MBAで自身が既存の価値観に縛れていて、マインドの重要性に気づいた事で、「人を幸せにするインフラ」を目指すため、会社を設立。時代と共に変化する幸せの価値に、ビジネス視点からアプローチを続けている。

## ■ 人口減少に伴う「成熟社会」の提唱

東京理科大学大学院卒業後、外資系の半導体会社に入社。「半導体は日本の第二の米である」と言われる程、安定していた業界で、リーマンショックが原因で研究所が閉鎖、リストラを経験。

その際、世界が日本の市場に興味を失ったことを示しているのではないかと考え、原因が「人口減少」である事に気づく。人口減少は※あらゆる現象を引き起こす社会現象と気づき、この現象を「成長社会から成熟社会への変化」と提唱。

人口減少によって従来のビジネスモデルでは供給過多となり通用しなくなっている「成熟社会」におけるビジネスや人の経営戦略を継承している。



<実績>

「成熟社会ビジネス実践会」セミナーを実施

「成熟社会におけるビジネスシフト」(総合法令出版社・2019年10月)

## ■ 成熟社会でより重要性を増す、「共助・共創」の創出

人口減少に伴い、人口増加に伴い作られたシステムは崩壊、国も企業も個人に自己責任を求められる社会が到来。企業への依存度は下がり自立性が求められる「成熟社会」へ社会は変化をしている。

この変化は、今まで命令され会社という枠で評価されてきた多くの人の精神的依存先の変化から「自分が何をしたら良いのか？自分の幸せがわからない。」という実存的虚無感を感じる人の増加を招いている。

そのため、成熟社会での孤独感を払拭し、個々人の幸せを提供するためには、成熟社会における「共助・共創」を作り出す必要があり、技術発達や家族形成の変化によって消えつつある共助・共創を作り出すため、BtoC向けの事業を展開。

<実績>

●地域リノベーション協同組合 2021年08月設立 代表理事

社会構造を「自分」「家族」「会社」「地域」「国家」の層と捉え、会社の依存度が下がった事に対し「地域」の重要度が上がり、「地域リノベーション」が今後求められることを提唱。成熟社会における経済成長モデルを作り直すため、地域活性化活動を行っている。2022年2月、新しい形の「カタログ型」クラウドファンディングサービス「CROFUN」の提供を開始

